

第74回市民ふれあいトーク 【一緒に考えるこのまちの地域力】

日時 平成29年11月9日 18:30~20:00

場所 船穂公民館

要約版

《市長》

皆さん、こんばんは。今日は、本当にお忙しい夕方のお出にくいお時間の中で、本当に多くの皆様に市民ふれあいトークにご参加をいただきまして誠にありがとうございます。また、日ごろから城後支所長はじめ船穂支所のみんなが大変お世話になっておりますことを心より感謝を申し上げる次第でございます。

今日は、第74回の市民ふれあいトークでございまして、私が市長に就任をさせていただきましてから、だいたい1か月に1回ぐらい、市議会があるときはちょっとお休みになるんですけど、月に1回ぐらいのペースで各公民館の方にお伺いしたり、また、テーマ別で開催をしたりということをやっているところでございます。今日はまず、素晴らしいスイートピーが活けてありまして、ちょっと時期より早いところをすごく頑張ってくださいんじゃないでしょうか？香りもいいしいつ見ても素晴らしいですね。本当にありがとうございます。倉敷市が誇る船穂の様々な産物、また歴史、文化を皆様と一緒に発信をしていきたい、というのが、この「一緒に考えるこのまちの地域力」ということでございます。最初に最近の倉敷市の状況などを私の方が10分ぐらいお話をさせていただきまして、皆さんとの間での意見交換ということにさせていただければと思っておりますのでよろしく願いいたします。

まず、この船穂のことについてですけど、平成17年の8月に倉敷市と合併をさせていただきまして、今、12年が経ってきております。この間、倉敷市が力を入れておりますこと、まだまだ足りないと言われるところもあるかと思っておりますけれど、最近の事としましては、昨年に倉敷大橋が開通をさせていただいたということが非常に大きいかんと思っております。倉敷市の北西部の大きな幹線道路ができたということで、市域の中でのいろいろな流通がよくなったり、また、どこに住もうかというときに倉敷駅の辺りとかばかりじゃなくて、市内のいろんなところに、そして船穂の方に住みたいという人が増えていただければいいなと思っております。実際のところ、船穂の人口、10年前の平成19年が7,333人だったんですけど、平成28年は7,471人ということで140人ぐらい増えてきております。市内全般的になかなか増えるところは少ないわけですけど、これを見ても船穂は非常に住みやすいところだと思っただいてるんじゃないかと一つは思っております。もちろんまだまだたくさん課題はあるかと思っております。

また、船穂の地区、特に柳井原の皆様大変ご協力をいただいております小田川の事業の方が進んできている状況でございまして、これは長年の課題の中におきまして、地域、また市域の中での防災の観点を皆様と一緒に何とかしていきたいという思いでございまして、事業の進捗につきましては随時、地区の皆様にお話を申し上げまして、しっかりやっていきたいと思っております。

私が船穂のことを倉敷市のPRに、全国の例えばデパートでありますとか、そういうところに行きますときに、「倉敷市はどういうところですか？」と聞かれましたら、申し上げることがございます。「倉敷といえば」と言われると、美観地区や瀬戸大橋に来たことがあるという人は多いわけでございます。それでは、「倉敷の産物は何を知っていますか？」と

言われたときに、桃と言われる方は結構多いわけですけど、そのとき私が言いますのがマスカット・オブ・アレキサンドリア、日本で一番いいマスカット・オブ・アレキサンドリアがありますと。皆さんが丹精込めて作ってくださっているということ、それから金時人参や大根も非常においしいですということ、そしてお花のスイートピーは、その花言葉も「新たな門出」ということで非常に縁起がいいお花ですということをお知らせして、「倉敷は農産品も素晴らしいものができるんですね」ということを皆さん言ってくださるわけでございます。そういう観点で、今、この船穂の中でも、農業、それから橋と合わせまして、ヤンマーさんの最先端の研究工場の方も、研究センターの方も一緒に来てくださったりするようになりました。

また、昨年、一時期、非常にみんな心配したわけですけど、当地区に水菱プラスチックさんがございます。三菱さんの生産の停止が去年ありまして、何とかしなければいけないということで、倉敷市、また地元の市議や県議や国会議員の方が一緒になって国土交通省、また三菱、またゴーンさんの方にもお話をしまして、生産を再開し、また、今度はご存知のように、今年の年末から大変久しぶりにRVRの新しい乗用車を水島で作っていただけ。この水菱プラスチックにおいてもそれに合わせまして非常に忙しくなっていくと思っておりますので、そういう日本の先端の事業についてもこの地区で皆さんに頑張ってもらっていると思っております。

私が、今年、非常に嬉しかったことは、この4月の末に文化庁の方から倉敷市の繊維産業の歴史が日本遺産というものに認定されたということがございます。世界遺産とかいろいろあるわけですが、この日本遺産というのは、まずは日本中の方が各地区的歴史・文化の中で是非この倉敷市の繊維産業を、そして綿花の歴史、そして交流の歴史というのを多くの方に知っていただくべきだということで、文化庁の方が認定をされました。内容が「一輪の綿花から始まる倉敷物語」というもので、今日皆さんのお手元の方にも一枚のカラーの物をお配りしておりますけれど、一の口水門も、その構成文化財として文化庁の方から非常に重要な文化財だということで認定になったわけでありまして。

ご存知のように、倉敷の中で、例えば倉敷地区では倉敷紡績さん、また玉島地区では玉島の備中綿、また児島でも古くから足袋や綿花の生産、そして現代では学生服、セーラー服、そして今ではジーンズということで多くの繊維産業が使われておりますけれど、その元になりましたのが、綿花をこの地区で幅広く生産をしていたということです。海に面した干拓地なので、なかなかお米が、塩分が多いので作りにくいということで、綿花、それから茶屋町のイ草を作っていて、それが交易の大きな原動力になって、北前船に乗って大阪と、ぐるっと山口の方を回って、日本海側を通過して、北海道まで行っているということの中で、高瀬舟のこの一の口水門が非常に大きな役割を果たしたということが認定をされたものでございます。

日本遺産に認定をされたことに伴いまして、観光客の方も増えているのではないかと思います。今日、また、皆さんの方からそのあたりのことも教えていただければと思っております。いろんな魅力を船穂は持っているわけですので、それをどうやって皆さんと一緒に発信をしていくかということに頑張りたいと思っております。

あまりしゃべっていると時間も経過しますので、このくらいでやめて、皆さんからご発言をいただきながら、また、市の状況などもお話をさせていただければと思っております。それでは、今、自分が地区のことについてこういうことを思っている、若しくはこういう

ことに力を入れているとか、市についてこれはどうなんですか、とかいうことがありましたら何でも結構でございますので、教えていただければと思っております。

《参加者 A さん》

私は柳井原の A といいます。私の地域は、今、小田川合流点付替事業ということで大変なんですが、この事業の必要性ということで真備町を洪水から守る、また倉敷市街地を守るために酒津地先の水位を下げるのが目的ということで国土交通省もそういうふうに謳っております。柳井原の貯水池は明治から大正期にかけて高梁川大改修の付帯工事として下流 19 カ町村の農業用水の不足を補うために東西高梁川、今は東高梁川はイオンの方から水島の方に流れておったということです。うち、西高梁川を締め切ってできたのが柳井原貯水池です。このことで下流、当時ですね、下流の方は恩恵を受けたというふうに思います。

その中、我が柳井原は川が池になり、個々の土地を収用され、何十軒かの家が柳井原を去ったというふうなことも聞いております。そのようなことで、大正期にも柳井原のコミュニティが崩壊したとも思っております。ここでの小田川合流付替事業ですね、また耕作地がほとんどなくなり、経済、野菜代金とかですね、文化、コミュニティも脅かされているところなんです。100年経たないうちに柳井原地域に2回もこんなことがあってもいいのでしょうか、と思うわけです。今後、柳井原地域の社会基盤の充実、昨年倉敷大橋、伊東市長の頑張りで架かりました。今、共有地の開発もどんどん進んでいます。今日のテーマでありますようにこの「一緒に考えるこのまちの地域力」ということで、伊東市長の力で柳井原地域にもっと元気の出る地域力をお願いしたいと思っておりますので、一つよろしく願います。

《市長》

Aさん、どうもありがとうございました。これまでの歴史も言ってくださいまして、本当に柳井原の地区の皆さんには大変ご負担をお掛けしていると思っております。一方で、国の方もこの改修というのを非常に重要な事業だということで位置付けているということもあるかと思っておりますので、もちろん橋の方もそうでございますけれど、この事業が柳井原をはじめとして、地区の活性化に繋がっていくようなものになるように市としては国と交渉をしまして、それからどういうふうに施設の整備等も含めてやっていくのが一番地域にとっていいのか、また、国の方でも理解付けもちゃんとできるような形になるようにしっかり頑張っていきたいと思っております。

さっき、土地が替わるということで、市としては圃場（ほじょう）の整備をいたしまして、一人でも多くの方に金時人参、大根をはじめとして作っていただきたいと思っております。ちょっと余談ですが、この付替事業に伴って、国土交通省で柳井原の金時人参の名前が大変有名になっておりまして、金時人参という農産品について国からの注目が非常に高まっていると思っております。後ろに貼っておりますけれど、今回の倉敷市50周年のときに、地域の子どもさんたちが描いてくれた絵も金時人参が主題目として描いてくれております。船穂の、倉敷市が誇る農産品を大切にしっかりと頑張りたいと思っております。農産物のことについては、今日は農業関係の方、後継者クラブとお見受けする方もいらっしゃるようですので、また、お話をお伺いできたらと思っております。

《参加者 B さん》

柳井原の B です。同じく小田川合流に関して、真備地区の小田川ですが、あの辺すごく雑木が多いんです。橋より高い木もたくさんあります。それで柳井原もああいうふうになるのかなあととても心配しています。あれは何に付けても一番に下の方から切っていくべきじゃあないかと思います。ゴミがいっぱいかかったり、非常に水流を妨げると思います。僕らが言っても国土交通省さんは聞かないので、市長さんから言ってもらえんかなあと 생각합니다。高梁川との合流地点の形状がスムーズに来とるような形状ではないですよね。だから土が池に蓄積して、柳井原が小田川合流するというところで問題になっているのにまだああいう状態で、雑木が多くて山よりすごいような木がありますよね。どう考えとんかなあと。まあよろしゅうお願いします。

《市長》

小田川の雑木、それから高梁川本流の方の大きな森のような感じの中洲があったりして、市の方からも高梁川本流の水の流れの阻害にならないように、それからもちろん小田川の流れが、木がたくさんあることによって急激に水が増えたりしないようにということで、国の方をお願いをしているところです。国の一般的な言い分としては、まず下流から、ということと言われるんです。それで前は全然切ってくれなかったんですけど、今は高梁川の下流の方から徐々に切り出してくれるようにはなってきました。まだまだこれから言っていけないといけないというふうに、もちろん思っております。特にご懸念の点の、水の流れの関係での付替事業の時に、そこは市の方から口を酸っぱくして当然国の方に言うつもりでございます。国としても多分、大事業の時にまとめてやるということを考えていると思いますので、そこまでにやると 2 回になるということも思っているのかもしれませんが、とにかく市としてはその大改修の時に木のところもちゃんとやってもらわないと、本当に適正に流れなかったら困るわけですし、そこはしっかりと皆さんの意向を受けて言っていくようにしたいと思います。

《参加者 C さん》

船穂町の C といいます。私は今、地域の老人クラブの会長をやらせてもらっています。最近常々思うことなんですけれども、政治家の方は、どの政党も老人・子どもの味方をするというか面倒を見るということはおっしゃるんですけど、元気でぴんぴんしている年寄りに対しては何もしてくれんですよね。私も 75 歳になりまして後期高齢者の仲間入りをしているわけですけど、障がいがあるわけなし、今のところ病気にもなってないので、元気で暮らしているんですけど、昼間元気な年寄りが集まってコミュニケーションが図れる場所が全然ないんですよね。できればお茶でも飲みながら周りの人とコミュニケーションできるような寄合所みたいな所をつくってほしいと思います。

《市長》

ありがとうございました。C さん非常にお元気で、病気せずにやっただいてるのは市にとっても大変ありがたいことございまして、そのままお元気でお願いしたいと思っております。倉敷市も人口構成の中で、65 歳以上の方、75 歳以上の方がこれから増

えていくということになるわけですが、その年長の皆さんがとにかくお元気でいていただかないと皆さん困るわけですし、市も、また国も困るわけです。それで今、船穂はふれあいサロンとかは何カ所くらいあるんですけどかね。

《参加者 C さん》

1カ所あるんですが、そこは現状は碁会所になっていて、囲碁をやる人が一日中いて、とても老人がそこへ集まってお茶を飲みながら話ができるような場所じゃないんですね。だから、そういうようなところをもう1カ所くらいつくってもらいたいと思います。

《市長》

地域のこれまでの寄合所の関係で、多分そちらの方は碁が中心にされてきたんじゃないかと思うんですが、今回これを出したんですけれど、「通いの場」ガイドブック）倉敷市内のカフェとかサロンとかの情報をまとめたもので、支所や健康福祉施設とかに行くともらえるんだっただけかな。倉敷市全体で400カ所ちかく、10人とか20人くらいで集まっておしゃべりしたり活動したりというところがあって、市からの補助金、といっても多少なんですけれど、補助金も使って活動していただいているところが結構たくさんあります。で、船穂は…、ちょっと（「通いの場」ガイドブックを）見てもらってもいいですか。

《参加者 C さん》

ああ、これはいきいきサロンのことですね。月1回コミュニティハウスを利用してですね。これは知っています。知っているけど月1回だからねえ。

《市長》

そうですね。他のところもだいたい月1回ですね。今現状ある市内のいきいき、ふれあい、通いの場とかは月1回とか2回のところが多いんですけど、市としてはもっと回数をさせていただきたいわけです、運営をされている方に。ですので、今年度から、回数が多かったら補助金を少しアップしたりして、そういう方向にってもらえないかということやっております。ただ、毎日開いているような所がということを引きとられているんじゃないかと思うんですけど、地域の公民館での活動に加えて、いろんなこういうサロンやいきいき、ふれあいの広場というのが増えればいいなと思っていますので。ずっと仕事勤めで、ご定年されてあまり外に出なくなったら急に老け込んだりされてもいけないので、そうならないようなものにできればと思っていますので、もっと普及してもらえように頑張ります。

《参加者 D さん》

関連したことで。コミュニティ協議会の世話をしておりますDと申します。倉敷市がいろいろ頑張ってくれているのは分かるんですが、コミュニティ活動を活性化しようとか、今、公助とか共助とか協働とかそういう言葉があるように、市も地元の人が一生懸命やってくれるような形にしてほしいということだろうと思うんですけど、あまりにもボランティアの人に任せるといいますか、かなりの負担も感じます。今年12年ぶりに夏祭りを何とかすることができたのは、各地区の町内会長さんとか皆さん頑張ってくれたからなん

ですけど、反省会の中で、船穂支所の中に、コミュニティを担当できるような人を置いてほしいという意見が出ました。今、支所長をはじめ支所の人が頑張ってくれているんですけど、いろいろ仕事がいっぱいあって、市がこれから頑張ってもらおうというコミュニティ活動を専属で補助してくれるような窓口を船穂の支所の中につくっていただけたらありがたいなと感じております。真備にはそういう担当者がおられるというふうに聞いております。真備と船穂の差がその中で出てくるのが非常に寂しいなと思っています。

《市長》

D会長にはコミュニティ協議会で大変ご尽力いただいております、夏祭りも12年ぶりに再開されました、私もお伺いしましたらすごく盛大で、大変素晴らしいと思いましたが、船穂小学校が地域の大きな拠点ですので、小学校が核になってコミュニティの皆さんと一緒に多くの方が協力してやってくださるようになれば大変ありがたいなと思っております。真備の支所には（市民活動の）係があるんですかね？（支所長：あるんです）そうですか。ちょっと考えてみます。専属でというのはちょっと難しいかとは思いますが、今日のテーマもそうなんですが、一緒に考えるということで、なかなか市がコミュニティの活動に深く一緒にというのはまだ難しいと思うんですが、例えば、こういう市の制度がありますから、一緒にやりませんかとか、日ごろからいろんな意見交換をできるのが一番重要じゃないかなとは思いますが、どういふところですかね具体的には。

《参加者Dさん》

何か行事をやるにしても、例えば今度コミュニティで敬老会を今年計画しているんですけど、どうやってやるかをみんなで話した時に、各地区に何歳くらいのお年寄りが何人いるかということも一切、個人情報だからということで市の方から教えてもらえないんですけど、どの町内に何人、80歳以上の方が何人おられるとか、町内会長がつかめてないんです。だから敬老会をやろうとしたらホールに入るだけの人だったら何歳以上にしたらいいのかという問題になりまして、各地区に何人くらい何歳以上の方がおられるか分からない。船穂町全体では教えていただけたんですよ、市の方から。だけど各地区に、やはり一緒に来られる希望者がどれくらいおられるとか、そういうようなことが分からないんです、全く。敬老会も前、船穂町時代にはやってたんですが、この12年なくなってるんで、それをやろうと思うと、いろいろ一緒に考えてもらえるようなパイプ役の人がいないとできないなと。今年はちょっともう、敬老会は順繰りの繰り延べになっちゃって。そういうパイプ役の人がいないと相談できないということもあって。

《市長》

はい、わかりました。よく検討してみて、また相談しましょう。柳井原の方はどうですか、Aさん。（Aさん：そりゃあ、あったらええと思いますよ。）はい、あったらいいということですね。柳井原の方もふなめし祭りもやっていただいて、もちろん商工会の皆さんも一生懸命やっていただいておりますけれど、倉敷のふなめしがもっと全国的に有名になっていけば良いなと思っておりますので。

それで、また皆さんからお手の方も挙がると思いますけれど、私の方からちょっと農業のことについて、皆さんの方からご意見といいますか、市としては一生懸命PRをしたり、

船穂ワイナリーの方もワインやジュースを作ってPRをしていたりするんですけど、まだまだこういう風に力を入れてもらいたいなということも、もちろんワイナリーだけではなくて、全般でいいんですけど、そういうお声がお伺いできればなと思うんですが、どうでしょうか。

《参加者 A さん》

僕は、JAに勤めとったんですけど、やはり市長さんが東京の大田市場とか、それから阪急百貨店とか販売の方に行ってくれるのが、あれがものすごくウケがいいんです。市場の関係の方々もものすごく喜ぶんですよ。東京の方へ出向いて行って販売の方をしてくれたら、それだけでグッと相場が上がるんですよ。(市長：上がるんですか) そうなんです。

《参加者 E さん》

農業研修生として3年前に船穂町へ大阪からやってまいりましたEと申します。私3年前にこちらにぶどうをしに来て、今研修生として頑張っています。それで僕が来年の4月に卒業予定なんですけれど、そのあとの新しい研修生というのが、今のところいないんです。で、採っていただくには、各果樹の部会の方々のOKという判断があるんですけど、その時重要になってくるのが、土地が出てきているかということになるんです。(市長：土地ですか?) はい、土地です。作る畑があるかどうかというところが大きくなってきますけど、その畑がなかなか出てこないんです。じゃあ、出てこないからといって無いのかというと、そういうわけではなくて、やっぱり、見ず知らずの者に貸すのは嫌だということもあると思うんですけど、後はもし出てきたとしても、条件としては、あまり…申し訳ないんですけど、条件の不利な場所から不利な場所から出てくる傾向があるんです。で、僕らが借りられる所というのもそういった所がどうしても出てきがちなので、「農業したくて来たんだから、どんな所でも頑張れよ。」と言われればそれまでなんですけど、やはりその整備にはお金がかかってきますし、その整備については農業公社さんとかがやってくださるんですけども、整備した時の費用は最終的には研修生が負担しなくてはならなくなってくるんです。お金の話をしているやらしいんですけど、どうしてもお金が減ってくると心も荒みがちになってしまうので、特にそういう荒れた圃場とかの整備について、今でもお金は出しているんですけど、もう少しそこを拡充していただけたらありがたいです。市長も先ほどおっしゃられたようにスイートピーとマスカットというのは施設栽培といいまして、ただ畑があればいいという訳ではなくて上物が要りますので、そこを2年3年使っていないものを使った時にもやはり万全の状態ではないので、メンテナンスするのもどうしてもお金がかかってきます。今農業をしたっていう人がいたとしても、絶対的な農業人口は減ってきているので、その中でまだ農業を特色として船穂及び倉敷に残していくには人数を増やさないといけないと思うので、その時に少しでもやろうと思う人たちの負担が減るようなフォローをしていただけるとすごくありがたいと思います。放棄地は少しずつ増えてきていると思うので、そこを何とかする手立てを、お金の面とか方策の面で何とかしていただけるとありがたいと思います。

《市長》

まず、貸してもらえようとするとかですね。なるほど…。農地中間管理機構があるじ

やないですか。そこについてはどう思われますか。

《参加者 E さん》

僕は、これからそこを使う立場なので、あまり言えないんですけど。十分機能しているかと言われると、そこまで機能してないんじゃないかと思うところはあります。

《参加者 F さん》

船穂町で新規就農させていただいて7年目…、8年目か、船穂町で住まわしてもらっていますFと申します。新規就農者の件で思う事がありまして、僕も市にお世話になって就農させていただいたんですけど、農地が無いわけではないんですけど、基本的に農地があっても雑木が生えてしまったりで、僕が船穂町に来て一番最初に、「景観が悪い所だな」というイメージを抱いたんです。それをこれから無くすにおいて、新規就農者、跡継ぎ方の人たちだけでは到底間に合わないスピードでどんどん荒廃していくと思うんです。で、せっかくこれだけ船穂町のことを思う先輩方がいますので、市長から農地が出てくるようにお声掛けをいただけたらと思ひまして。僕はぶどう部会という所に所属しているんですけど、そこで農地が無いから受け入れができないという形で今は止められています。船穂町のことを考えていただけるのなら、これからの景観を守るため、農地を荒らすのではなく、農業公社に預けていただけたらと思います。よろしくをお願いします。

《市長》

はい、どうもありがとうございます。EさんとFさんから、農業をする土地のところが中々難しい所があるというお話がございました。そのお話をお伺いする中で、農業公社の方にも役割も頑張ってもらいたいなということで…。今日は農業公社の方は誰か…Gさんが来てますね。ちょっと農業公社の方からお願いします、せっかくだから。

《参加者 G さん》

農業公社のGと申します。現状、彼らの言うように荒れた土地がかなりあります。そこへ今マスカットにしてもスイートピーにしても、施設をこしらえていけないといけません。その施設代にかなりお金がかかります。運が良く成木とか出た場合は、すぐお金になるんですけど、特にマスカットの場合は4年、5年植えてからかかります。それまでは無収入です。それまでの貯金をはたいて色々やってきているんですけど、その辺の補助の方を考えていけないといけなかなあと思っています。また農林（水産課）の方と相談しないといけないんですけど、そういった所をきれいにすれば、F君の言うように景観もきれいになったり、そういう問題が解決するんじゃないかなあと思っています。色々これは貸し手、借り手の問題がありまして、新しく来た人の信用といいますか、色々難しいと思います。私が土地を持っていたとしても、「この子はどんな子かなあ」と思って、公社を通じて彼らに貸していくわけですけど、そここのところが、出てくるのが大変難しいんです。出てきたところで、古い施設等の分の負担をしていただかないといけない制度になっています。その制度を見直しをかけられるのなら、かけてあげたらいいかなと思います。そこら辺りは、農林（水産課）とまた話をしないといいかなあと思っています。

《市長》

はい、ありがとうございます。今使っていないところがどのように利用できるかということで、Eさんとかも言われたように、初めての方に貸すというのに抵抗がある方もいらっしゃるかと思いますので、市としては公社を通じてという形がいいかなということで、今のような制度にしているわけですが、まだまだ、本当に農業者の方が人材育成、後継者育成ということで増えていかないことには地元の農業も発展しないと思いますので、皆さんのお話を伺ってまた検討していきたいと思います。

後継者クラブの皆さんも本当に、小学校に行ってくださいたり、農業祭などいろいろなイベントでも頑張ってくださいているのが、本当にありがたいと思っております。皆さんの姿を見せることがまた、子どもたちも農業に従事したいって思ってくれることもあるかと思えますし、さっき言ってくださったように、この農業公社を通じてという制度があるっていうの知らない方もいらっしゃるんじゃないかと思えますので、今自分が作ってないというのがあれば、農業公社に教えていただければと思います。よろしくお願いします。

それと、先ほどAさんが、大田市場とかデパートでとかいうことで言ってくださったんですけど、私が行きます時にどっちに行く方が良いんですかね？大きな市場に朝早い時に行った方が効果があるのか、それともデパートに行けば外商のお客さんとかを紹介して下さって買ってくれるからそれも効果があるので、まあどっちもできればいいんですけど、どっちがいいのかなあと迷う事があって、意見を聞いてみたいと思うんですがどうでしょうか。

《参加者Hさん》

船穂町の農業後継者クラブのHといいます。僕は、市長が言われたことと違う視点を持ってまして、市長が東京とかに出向いていただけるのは宣伝効果があって非常にありがたいんですけど、倉敷市には美観地区という年間300万人を集める施設がありますよね。県外に出て行かれて、倉敷という所に興味があるかどうか判らないと言うと語弊があるんですけど、そういう方にPRしていただくのもいいんですけど、倉敷という所に興味があって来られている方にどんどん宣伝していただきたいなと思うところがあるのが一つ、船穂町には船穂ワイナリーという施設もありますから、美観地区から船穂ワイナリーってすごく近い距離だと思うんですけども、そこはまだマッチングしきれてないんじゃないかと思うところがありますんで、そういう倉敷に興味ある方にどんどん倉敷の農産物をPRしていただけたらいいなと思います。ちょっと、質問と違うことですね。

《市長》

いやいや、大変よく分かりました。着眼点、素晴らしいと思います。倉敷に元々関心があるから来てくれているんで、まあ美観地区に来る人が多いんですけど、でもその美観地区に来てこの地でスイートピーやマスカットができているのを知ってくれば、その売り上げにも繋がるという方向性は確かにそうですね。今後また倉敷の美観地区近辺で市がPRする場所を設ける時に、今は〇〇マルシェみたいな期間限定で設けていることが多いんですけど、それだけじゃなくて何かしら定期的な恒常的なものを持てればいいなと思っているんですけど、もちろん通年ではできない物もあるんですけど、例えばそういう所でPRするのもいい案だなと思いました。ありがとうございます。

《参加者 I さん》

私は船穂商工会の理事をしております I と申します。中新田・福島地区の代表です。私どもの地区であります工業用地についてお伺いをいたします。今、土地の仲買業者が坪何万円とかいうことをサインしてくださいと言って回っております。市の皆さんもこのことはご存知だと思います。そこでお伺いをいたします。(パンフレットを出す) これは多分市が発行したか何かだと思います。23haのパンフレットでございます。(市長にパンフレットを手渡す) パンフレットによりますと建築物の敷地面積の最低限度は5,000㎡と、約5反と書いてあります。我が船穂商工会員の手の出る面積ではございません。土地代だけで約2億円。建屋、中身を入れると3億、4億(円)かかると思います。船穂でそんなに大きな資本金を出していけるところはありません。そこで一つ市長にお願いがございます。私どもの手の届く5,000㎡以下の許可をいただけるものでしょうか。例えば1,000㎡とか2,000㎡を許可していただくということはできないものでしょうか、ということをお伺いしたい。もしそれがいけないというのであれば、私たち船穂の町民若しくは船穂の商工会の会員は、工場はどこへ建てればいいのか聞かせてください。

それからもう1点。この工業用地が全部埋まれば雇用の数、約1,000名ぐらいだと思います。家族を入れると約3,000名か4,000名ぐらいになると思います。ちなみに船穂町は合併する前は7,700(人)でございましたけど、今は7,400(人)で若干少な目になっていると思いますけど、船穂町の約半分の(人数の)皆さんがここに来られる計算です。その人はどこへ住めばいいんですかね。船穂町にどこに家を建てればいいんですかね。船穂町以外の人に来られるんですか。私も七十何歳になりますけど前町長、前々町長、何人も町長をよく知っております。先人の皆さんは中新田の土地、それから子どもや孫のためにと頑張って、10年も50年もかかってやっと(完成して)パンフレットを見るようになっております。先人は今のことを願ってこの工業団地を造ったんでしょうか。ここ20年間、山陽自動車道、山陽新幹線、国道2号線、全部船穂町の協力あってできたものでございます。今この3つ合わせてもチャリンとも落ちてきません。この工業用地も何か通過してもチャリンとも落ちて来ない。大企業が入って来て地元の人、船穂町には何の幸せがあるのですか。お尋ねをいたします。

《市長》

どうもありがとうございました。この工業区域のところですけど、ご存知のように倉敷市が船穂町から引き継いできたところと、それから今また新しいところとあるというふうに思っております。この詳しい県南広域都市計画の決定っていうのが、すみません、私がこの元々の計画を作った時のを見たわけじゃないんですけど、工業用地の場合の、こういうインターのすぐ近くにあるものところは大規模施設の誘致をということが多分、元々の考えだったんじゃないかと思うので、5,000㎡ということになっているのではないかと思います。一方でIさんが言われるように、町内の方が新しく工場をしようと思ったら、どこに建てればいいのかということも、もっともなお話だと思います。雇用の面が、どういう業種が来るかによって違ってくると思いますけれど、ここに大規模な事業者が来て、雇用が町内に全く増えないかどうかは、形態にもよるかなと思いますけれど…。市としてはなるべくここは多くの方に使っていただけたらというふうには思っているんで

すけど、この5,000㎡を、県南広域都市計画決定というのを、これまでされているものを、どうやったら緩められるかのかというのが、今すぐには私の方も分からないものですので、ただ、今いろんな、国の中でも住宅を建てられない区域が非常に多くなってきているということで、住む人が増えないということの問題がある地域も増えておりますので、そういうところをどうやっていくかというのが、市の方に課せられている課題だろうとは私も思っております。そのぐらいの答えしか今日ではできなくて申し訳ないんですけど。

《参加者Iさん》

これがお国のために決まっているのであれば、仕方ありません。それで結構です。だけど、ここの従業員の1,000名の家族は、その近所へ住まないとイケんでは。それなら、どこに家を建てたらいいんですかということをお伺いしたい。それから、大きな会社が来れば必ず小っちゃな会社がついてくるんですよ。そういう人はどこへ行ったらいいんですかということらへんを考えていただきたいということを私は言いたい。

《市長》

よくわかりました。ありがとうございます。この工業団地、工業用地のところだけに関わることじゃない広い指摘だったと思います。今国が色々特区とか作ったり、いろんな道も前よりはだんだんできているというふうにも思っていますので、よく検討していきたいと思います。

《参加者Jさん》

Jと申します。日本遺産に一の口水門が認定されました。一の口水門は日本で一番古いと辞典にも載ってるんですが、日本の閘門式水門を全部網羅されている川の専門の先生が、一の口水門のことは知らなかったんです。この一の口水門ができたのが1645年、高瀬通しが開通したのが1674年です。これをした人が水谷公と言われる、東京の上野の不忍の池を造られた方です。で、この方が作られたんですけど、なにしろ資料がないもので、言い伝えだけということで今まで見向きもされなかったんです。ところがここ十年あまり日本全国から興味がある人がいっぱい来ているんです。大勢来られても、知らない方は知らない。支所長も知らなかったみたいで、市長も多分知られてないんじゃないかと思うんです。先日もバスで来られたんですが、支所に「戸を開けてください」と閘門式水門の中をろくろがあるから見せてくださいということでお願いしたんですが、却下されました。「水門と上の建物は違う」と言われました。で、頼んだのが文化財（保護）課です。それで、「直してください」と、市の文化財（保護）課も支所も予算を申請したんですけど、全然予算の中には入りません。水門の小屋の木が腐ってきているんです。で、「床も腐ってきてますから入れません」と言われるんです。それを「直してください」と言っているのに、していただけません。市長ご存知でしたか。そういうことがあって、皆さん見れないとなると周りの木を剥ぐんです。危ない人は、石垣の高さが12mあるんですが、その石垣の方のわずかな隙間を狙って身を乗り出して見ようとするんです。だから今は市の産業係に言って写真を貼ってもらっています。でも（見学の人が）来る時ぐらいは支所に鍵があるんだったら、それを地元の、案内できる私たち船穂里山の会といってボランティアでやってるんですけど、そこにお渡し願えたら大勢の人に見ていただけるんです。だ

からまず直してください。予算を申請していながらも、それをどうしてしていただけないのかということ。よろしくお願いします。

《参加者 K さん》

同じ質問になるんですけど、いっぺんに済ませたいと思います。一の口水門については文化財登録していただいているということなんですけど、今 J さんがおっしゃる通りで、一の口水門だけが取り上げられているような印象があるんですけど、これは高瀬通しという歴史遺産の中で、一の口水門で取り入れた水路が 10 km 先の玉島港までつながっていると。その中で一の口水門と又串水門という間が、世界に先駆けた開門式運河という構造を大規模に構成されておるといこと。その中で今その管理体制が、現在西岸用水として高瀬通しを利用してる関係で、過去の高瀬通しの時代の管理者いうんですか、そのへんとのからみもあって、行政に問い合わせても全然返答が返ってこない。「言うときます」で済む。これとは関係ないのかもしれませんが、結局今の支所の体制が小さなことしか権限がない、金もないというようなことで誠に冷たい対応というか、相談に乗って物事を解決しようという意欲が感じとれんような雰囲気もある中で、私も又串の町内会のお世話をしようの関係で発言をさせていただきましてすみませんが、そのへんの対応を是非ともいことと、又串の水門小屋の部分について、ちょうどそれが堅盤谷や柳井原の中学生の通学路になってるんです。今にもそれが、倒れそうな状態になっているんです。倒れて大きな事故にでもなったら大変だなあと思いつながら、どこに言っていけば解決できるんか、どういう方法があるんかさえわからん状態で悩ましい日々を送っておるわけで、そのへんの対応策があれば、是非とも早めにやっていただきたいなというふうに思っております。

《市長》

ありがとうございます。一の口水門のことにつきましては、今開放していないというのは危ないからだということになってくると思っています。今のままですと…。

《参加者 J さん》

床が、こう、木があるんです。それも折れているんです。それを直してくださいと言ってるんですよ。予算がどうして取れないのか何年も文化財（保護）課も言い支所も言い。どうしてですか、市長。市長は行かれましたか。一の口水門や高瀬通しは。

《市長》

もちろん行かせていただきました。中には入っていませんけれど、素晴らしいものだとは思っております。パナマ運河に先駆けたすごいものだと思います。ですので、日本遺産ということだけじゃなしに地域の重要なものとしてやっていかないと、という認識は持っております。また建設局の方からも、地元の土木（委員）さんの方から地域の要望も上げていただいていると伺っておりますので、よく検討させていただきたいと思っておりますし、地域の皆さんと、改修をしていく場合、どういうふうに使っていくっていうんですか、さっき言われた案内ないし見学の際にどうするかってこと等も含めて、日本遺産という注目も浴びることになりましたので、しっかりそのあたりも含めて相談して、前に進めるのが必要なという認識は持っておりますので、また地域の皆さんにご相談をさせていた

できればと思っております。

《参加者 L さん》

水門の L と言います。水門地区は県道で二つに分かれています。県道で二つに分かれています。前は信号を付ける予定の話もあったんですが、今はそれが立ち消えになって、また車も多くなってるんで、点滅信号かな、ああいうのがあればなと思っております。

それからもう一つ。後期高齢者が多くなってきて、主婦の人が体調を崩した時に、毎日の食事を作るのが困難になってきております。そこで1週間、2週間位なら冷凍でもいいなと思うんじゃないけど、長期になったら、食べ物を作るのに大変困ります。そこで、作って届けてくれるところがあればいいなと思っております。これから後期高齢者が増えていくんで、そういうところがあればなと思っております。二つだけです。

《市長》

ありがとうございました。信号のお話をいただきました。県道ということの部分でお話をいただく中で、市もこれまで何度か県の方にそのあたりのお話をしているんですけど、今のところ難しいという回答がきております状況になっています。交通量とかがまた変わってくれば、再度要望していくということもあるかというふうに思っておりますので、また地元の状況を教えていただきますようお願いしたいと思います。

二つ目のお話は健康長寿社会、要支援の方とか要介護の方もいらっしゃると思えますし、そうじゃない方もいらっしゃると思うんですが、そういう困難な状況に急になった時にどういうふうにするかということじゃないかと思えます。国の制度が使えるものはそれを是非使いたいと思えますし、また先ほどお話にも出ていましたけれど、地域の中でつながりが、通いの場とかサロンなどを通じて交流が深まっていくというところで、取り組めるものがあればと思います。これからの長寿社会の中で皆さんがいかに健康に、それは健康とか栄養とか、もちろん愛育さんや消費生活学級さん、色々ご尽力いただいておりますけど、そういうところを皆さんと一緒に頑張りたいと思えます。何か煮え切らない発言ですみませんが。ありがとうございます。

《参加者 M さん》

中新田の M と申します。幼稚園のことでちょっとお尋ねします。中新田幼稚園はもう廃園になります。それで、船穂幼稚園の方に来なくちゃいけないんですけど、それ自体はもう子どもが少ないわけですから仕方がないと思えます。ところが、船穂幼稚園に来るためには、自転車で送り迎えをなささいということなんです。私は実家が金光なんですけれど、金光は随分前から幼稚園が廃園になって統合されてます。それでもバスで送迎があるんです。船穂はそれがないってことなんで、通勤の時間っていうのはすごく車が多いですから、自転車で送り迎えっていうのはすごい危険っていうふうに思ってしまったんですけど、何か送迎のバスか、親が送っていくんだったら、車で送っていけるように何か考えていただけないかなと思ひましてお願いなんですけれど。

《市長》

ありがとうございました。今全般的に幼稚園の子どもさんの人数が少なくなっていると

いうことで、これは船穂地区だけでなく、市内の各地区で幼稚園の形態が変わったり、3つが一緒になって一つになったりということが進んできているんですが、その時に私が教育委員会の方と話をしているのは、もちろん遠いところがありますし、合併してここに行きましょうということになったら、今よりも遠くなるわけですので、スペースの関係もあると思いますけれど、合併になったところから行く方が駐車場のスペースを設けて送り迎えをできるようなところに、気を配ってからやるようにという話はしてるのですが、中新田幼稚園が31年度からでしたかね。今まさに、統合になった時に幼稚園の配置とか、駐車場とかを検討しているところだと思いますので、そのあたりちょっと確認します。一応そういう話はしているつもりではあります。どうもありがとうございます。

《参加者 N さん》

柳井原のNと言います。私が今日お願いしたいことは、高齢者の買い物難民についてです。社会一般で少子高齢化が進んでおることと相まって、地域でも小規模のお店が次第に少なくなってきたおることと、これから問題化するのではないかと感じております。私、柳井原なんですけれど、柳井原では店が1軒もないんです。この件につきまして、船穂柳井原地区社会福祉協議会の小地域ケア会議で議題として取り上げられて、色々検討されたんですけど、これという解決策はなかったと聞いております。それで、特に柳井原地域につきましては、これから小田川付替事業も着工するんですけども、これによって土地がある程度造成されるんですが、そういう土地の一部を、倉敷市の特区のような制度を設けて、例えばコンビニを誘致しやすいような方法を市の方で考えていただけないかというお願いなんです。特にどういう店が来ようとも、土地が確保できなくなかなか難しいというように聞いております。堤防と現時点の土地との間に、特定する土地じゃなくて、これからそういうことを計画した土地をある程度確保するような考えで進めていただきたいということで、よろしく申し上げます。

《市長》

将来的に買い物難民になったら困るというあたりのところを踏まえたご発言だと思いますので、国の方の施設の中にコンビニができるかどうかは、難しいような気もするんですが、コンビニの話は国の方としたことがないので、例えばまずちょっと聞いてみたいと思うかと思えますし、それから全国でも買い物難民の方をどういうふうにしていくかということで、例えば地域おこし協力隊の方が、トラックで行商みたいな形で定期的に回ってくるようなことが成功されているところもあるし、うまくいってないところもありますので、そういうものとかが使えないのかなとか、今後柳井原だけじゃなくて、そういうことなども検討しないといけない時期が近づいているかなとは思っております。

《参加者 C さん》

前にテレビで紹介されていたのは、ワゴン車みたいなので小さい村を巡回して行って、それにガソリン代とか補助金を自治体が出すという形で成功しているっていうのをしました。

《市長》

ワゴン車みたいなので回ってくるっていうのが、成功しているところがありましたね。

コンビニになるかどうかはわかりませんが、よく検討します。ありがとうございました。

《当日参加0さん》

鳥向の〇と申します。この間の10月に大雨が来りましたですね。その時に船穂橋の船穂側の方の土手の下を、井戸水が吹き出るくらいに水が土手の北側に出ているんです。それをご存知でしょうか。私はそれを見て不安に思っているんですが、万が一そういった大雨が続くと、大変なことになるんじゃないかならうかと思います。以前土井町長がおられた時に、護岸をかなりやっていたんですが、その下をなんか染み透って、川のごとく流れ出しているのを確認しました。小林の餅店さんのすぐ西になるところなんですけど、船穂橋のすぐ真下ぐらいになりますでしょうかね。北の方へ吹き出てました。

《市長》

大雨が出たとき、高梁川の土手の漏水というのは年数が経っておりますので、常に気をつけないといけないところだと思っております。もちろん小田川の付替えの時に、そういうふうにならないようには、必ずその時にはするわけですけど、それだけじゃなくて、元々あるところで漏水箇所というのは、たまにどこかしら出ます。それをその時、市の方から国の方に言って直してもらってということになりますので、船穂橋の分についても再度国の方に、補修が必要な部分はしっかりやってもらうように言いたいと思います。

《参加者Kさん》

国交省は分かってないの。この間増水した時に、自分らの前の堤防の下からもそういう現象が起きて、鉄橋のへんぐらいまでは、場所によってはそういう現象が見られたということですが、それを「出ると時に言うてください」という言い方するんです。(市長：そりゃできませんよね。)いつ起きるか分からんけど実際起きると。そういう言い方しかできんでしょう。そのへんの対応がなんか無責任じゃなあ思うし、そこらへんは市と住民でもうちょっと強硬な形で、最終的にはようならないといけんのですからね。

《市長》

ありがとうございました。今日は長時間にわたって、皆さんにいろんな観点から地域の課題、また今後の方向性のことについて教えていただきまして、大変ありがとうございました。すぐできるものもありますし、これから検討するものもありますしという中でございますけれど、皆さんのご関心を持っていらっしゃる観点というのが我々もよく分かりましたので、そういうものを基にして、これからの行政の方向、いろんな施策に当たっての方向を考えていきたいというふうに思っております。また、これからスイートピーの季節になりますし、お正月には金時人参も大根も時期になりますし、ふな飯も美味しい時期に近づいてまいりますし、今年は船穂小学校の夏祭りに参りましたが、是非、その度ごとにお伺いできるようにしたいと思っております。本当にいろんな面でいつもお世話になっておりましてありがとうございます。今日は大変ありがとうございました。

《終》